

御 挨 拶

理事長 古 澤 茂 堂

皆様には日頃から『山形いのちの電話』のために御尽力、御協力をいただきまして誠に有難うございます。

ここ1年間『いのちの電話』については色々な出来事がありましたが、総じて前向きに順調に進んでいるのではないかと感じています。

良いニュースとしては、本年1月『山形いのちの電話』が山形新聞社の3P賞（平和賞）をいただき、1月30日に表彰式が行われ、副賞として芸工大峯田名誉教授の作品のブロンズ像と金一封(10万円)をいただきました。

金一封については、記念に残るものと考え、相談員の研修用機材（電話対応研修器）等を購入しました。私達の活動を地域社会でも有意義なものとして認知し、評価してくれたものと考えております。

『いのちの電話』の活動をこの機に評価してもらえることは、後援会の会員募集、相談員の応募者等に良い影響を与えてくれるのではないかと念じているところです。

また、財務面でも、役員の皆様からお知り合いの企業を紹介、口添えしていただき、20社以上新しい会員企業が増加し、それと経費面での合理化と相まって、相当の改善が見られました。財務委員会を中心に皆様の御協力を今後もお願い致します。

今後は、特に相談員の確保が大きな課題となると思いますので、一般応募以外にも、皆様のお知り合いの方に声をかけていただければと思っております。

昨年は県内での自殺者の数は前年より少なくなっていますが、受信電話数は100件以上増えています。私達の活動が社会より求められているものと思いますので、今後共変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

いのちの電話の目的

いのちの電話は、孤独の中にあって、時には精神的危機に直面し、自殺をはじめ、助けと励ましを求めている一人一人と、主に「電話」という手段で対話することを目的とする。